

「鉄道開通に関する書状を読む」解説

1 長谷川家文書について

- ・資料の概要 ※埼玉県立文書館資料検索システム「文書群の概要」から

大きく2つの文書群で構成される。第1は、北河原村〔現行田市〕のうち旗本西尾氏知行所分の名主文書。年貢関係、利根川堤普請関係、土地証書類がまとまっている。第2は、明治10年代に県会議員・県官だった長谷川敬助に関する個人文書。七名社など自由民権関係、談話会など地方自治関係、証書類のほか、明治期の書簡がまとまっている。

- ・資料点数 総点数1,650点（近世383点、近代1,267点）。

⇒今回は長谷川家文書のうち、明治16年（1883）12月24日に、日本鉄道会社社長の吉井友実から、長谷川敬助にあてた書状（長谷川家文書829）を取り上げる。

2 書状の登場人物

(1) 日本鉄道会社理事委員 長谷川敬助 はせがわ・けいすけ（1850～1922）

- ・嘉永3年（1850）7月28日、埼玉郡北河原村の世襲名主長谷川家に誕生
- ・明治6年（1873）6月、北河原村副戸長
- ・明治7年（1874）4月、学区取締
- ・明治8年（1875）2月、民権結社七名社の結成に参画
- ・明治10年（1877）5月、第十五区長
- ・明治12年（1879）3月、人間高麗郡長
- ・明治13年（1880）4月、依願免本官 文書館収蔵
- ・明治13年（1880）7月、県会議員 中村家文書 254(部分)
- ・明治14年（1881）2月、第3代県会議長（～明治15年（1882）5月）
- ・明治14年（1881）5月、日本鉄道会社出金人
- ・明治14年（1881）12月、日本鉄道会社臨時総会で理事委員に当選
- ・明治17年（1884）4月、5月に予定された上野-高崎間開業式委員に選挙
- ・明治17年（1884）6月、理事委員を辞任
- ・明治17年（1884）10月、北埼玉郡長
- ・明治18年（1885）4月、北足立新座郡長
- ・明治19年（1886）8月、埼玉県書記官・第二部長
- ・明治23年（1890）2月、依願免本官、熊谷銀行・熊谷貯蓄銀行頭取
- ・明治31年（1898）3月、埼玉農工銀行頭取（～大正4年〔1915〕）
- ・大正11年（1922）7月16日、死去（73歳）



(2) 日本鉄道会社社長 吉井友実 よしい・ともぎね (1828～1891)

- ・文政 10 年 (1828) 2 月 26 日、薩摩国鹿児島生まれ。西郷隆盛、大久保利通らと国事に奔走。
- ・慶応 4 年 (1868) 2 月、徴士参与局・軍防事務局判事
- ・明治 3 年 (1870) 4 月、民部少輔兼大蔵少輔
- ・明治 4 年 (1871) 7 月、宮内大丞
- ・明治 7 年 (1874) 3 月、辞職
- ・明治 8 年 (1875) 4 月、元老院議官
- ・明治 10 年 (1877) 8 月、一等侍補
- ・明治 11 年 (1878) 5 月、兼元老院議官
- ・明治 12 年 (1879) 3 月、兼工部少輔
- ・明治 13 年 (1880) 6 月、兼工部大輔
- ・明治 15 年 (1882) 1 月、辞職。2 月、日本鉄道会社社長
- ・明治 17 年 (1884) 7 月、辞職。宮内大輔、伯爵。後、元老院議官、宮内次官、枢密顧問官などを歴任
- ・明治 24 年 (1891) 4 月 22 日、死去 (64 歳)

3 時代背景

(1) 日本の鉄道の始まり

- ・幕末、ロシアや米国が来航し、模型を通じて蒸気機関車の情報が伝えられる。
- ・明治 2 年 (1869)、政府は東京-京都の幹線、東京-横浜・琵琶湖近傍-敦賀・京都-神戸の支線の鉄道敷設計画を決定。
- ・明治 5 年 (1872)、東京 (新橋) -横浜間の鉄道開業。
- ・明治 13 年 (1880) 2 月、政府の工部省鉄道局が東京-京都線の中山道ルートの一部として、東京-高崎間の測量を開始。建築工事着手の許可を得るが、建設費が手当てされず、11 月には許可取消し。
→背景に西南戦争 (明治 10 年) 等による財政悪化があった。

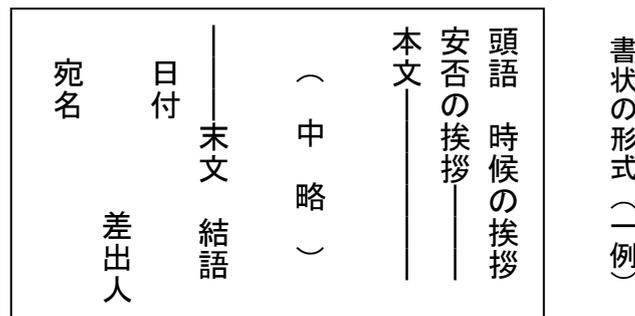
(2) 日本鉄道会社の創立と鉄道の敷設

- ・政府による鉄道建設中止を受け、従来から鉄道建設を企画していた、旧公家・旧大名などからなるグループが、日本で最初の私設鉄道会社である日本鉄道会社の設立を企画。
→明治 14 年 (1881) 2 月から計画路線沿線の府県を通じて出資者を募集。
- ・明治 14 年 (1881) 11 月、日本鉄道会社創立。
→同社が東京・前橋間の路線 (第一区線) とその路線から分岐し青森に至る路線を建設することとなる。
- ・明治 15 年 (1882) 6 月、川口から高崎・前橋に向け、鉄道建設工事が本格化。

- ・明治16年(1883)7月28日、上野-熊谷間仮開業。
- ・明治16年(1883)10月21日、本庄まで開業区間延伸。
- ・明治16年(1883)12月27日、群馬県多野郡の新町まで延伸。
- ・明治17年(1884)5月1日、高崎まで延伸(開業式は延期)。
- ・明治17年(1884)6月25日、開業式挙行。
- ・明治17年(1884)8月20日、前橋まで延伸。
- ・明治18年(1885)3月1日、品川-前橋間(第一区線)全線開業。

3 文書の全体を眺める

- ・罫紙(けいし) 原稿用紙のようなもの。版本の形式に由来し、江戸時代中～後期に現れる。「版心」に社章、社名がみえる。左下に「第十号」とある。
- ・右上に文書番号、割印がみえる。文書番号が付されて、台帳で管理されている公的な文書であることがうかがえる。
- ・全体にわたって虫損がある。



4 解読のポイント

- ・陳者 のぶれば
→ 陳(述)ぶ+已然形+ば(者)。申し上げますが。さて。ほどの意味。
- ・愈 いよいよ
→ 1字でいよいよと読める。弥の字を使うこともある。
- ・新町 しんまち
→ 群馬県多野郡新町(現高崎市)。旧中山道の宿場。
- ・午餐 ごさん
→ ランチ。ディナーは晚餐。
- ・饗応 きょうおう
→ 供応。飲食物を提供しもてなす。資料では音が共通する「響」を使用。
- ・駅 えき
→ 宿場。現在の鉄道駅はこの頃停車場といった。
- ・割烹 かっぼう
→ 肉を切って煮る=料理のこと。

- ・振合 ふりあい
→ その場の具合。釣合い。
- ・一打 いちダース
→ 1ダース (dozen) は12個。
- ・神田小柳町 かんだこやなぎちょう
→ 現在の神田須田町1～2丁目の一部。昭和8年(1933)に帝都復興計画のなかで区画整理により、神田須田町に編入。

5 参考文献

『日本鉄道株式会社沿革史』第1篇・第2篇(年代不明、『明治期鉄道史資料 第二集』一・二巻、日本経済評論社、1980年所収)

「吉井友実文書」国立国会図書館リサーチ・ナビ(<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>)
2020年8月3日閲覧

埼玉県立文書館編『堀口家・長谷川家・船川家文書目録』埼玉県立文書館、1981年
埼玉県立文書館編『「鉄道の埼玉 ー明治から現代へー」展示解説図録』埼玉県立文書館、2020年

堀川貴司『書誌学入門』勉誠出版、2010年